GIGAスクール構想

情報活用能力育成のためのSTAGE3をめざして
～一人一台端末を活用した児童主体の授業～

総社市立常盤小学校

1 はじめに

本校では、児童主体の授業づくりをめざし、教育実践を推進しています。令和3年度、県教委の「GIGAスクール構想モデル校」の指定を受け、一人一台の端末をどのように活用すると、より児童主体の授業となるのかを追究してきました。

また、県教委が示すICT機器授業活用「STAGE3」、探究的な学習と情報活用能力の育成を推進する授業づくりに取り組みました。

2 取組の内容

(1) 実践事例

5年理科「天気とわたしたちのくらしを考えよう」

単元の学習を終え、児童は新たに次のような問いや願いをもっていました。

・地域の災害対策がどうなっているのか調べてみたい。

・災害から命を守るために、自分たちにできることのランキングを作ってみたい。

これらの思いから、STAGE3の学習がスタートしました。

「災害から命を守るために自分たちにできることやみんなが知っておくといいことを家族や下級生、地域の人に伝えよう」という課題を設定し、端末を活用しながら情報の収集、分析、整理に取り組んでいきました。

各自まとめたことを発表し、情報共有します。そして、改善すべき点をアドバイスし合うことで、ブラッシュアップしていきました。

グループでの探究活動場面

単元の終末部分では、公民館に作成した資料を置いてもらうようにし、地域へ情報発信しました。資料に二次元コードを掲載しておくことで、資料を見てくださった地域の方から意見をいただき、フィードバックすることもできました。

※詳細は「教科等におけるICT活用事例集STAGE3編第二版　岡山県教育庁義務教育課」に掲載

(2) 思考ツール

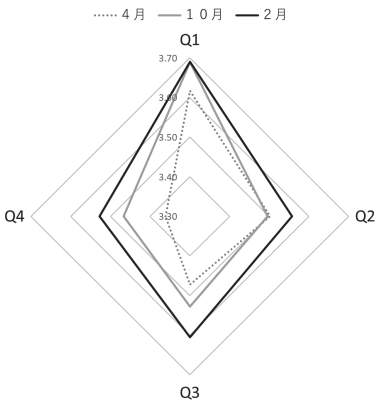
STAGE3の授業を各学年で試みました。その中で、鳴門教育大学准教授である泰山裕氏から児童の思考を支援する「思考ツール」を教えていただきました。

児童が課題解決していく際、「多面的に見る」「比較する」「関連付ける」などの観点をもって、情報を収集、分類、整理することで、思考力とともに情報活用能力を育成することができるとのことでした。

このような取り組みを経ることで、情報活用能力の向上だけでなく、児童の意識にも大きな変化をみることができました。

令和四年度、4・10・2月に実施した児童の意識調査結果です。

	4月	10月	2月
Q1：わくわく	3.62	3.69	3.69
Q2：つながる	3.50	3.50	3.56
Q3：ひろがる	3.47	3.53	3.60
Q4：ふかめる	3.36	3.47	3.53



【調査対象内容（4観点）】
意欲・関心「わくわく」　思考の繋がり「つながる」
思考の広がり「ひろがる」　思考の深まり「ふかめる」

【分析方法】
肯定的な回答を4点　比較的肯定的な回答を3点
比較的否定的な回答2点　否定的な回答を1点
として、全校平均値を算出。

3 おわりに

端末に触れれば触れるほど、児童の技能の向上が見られ、授業で端末を操作する姿が自然なものとなっていきました。端末の効果的な活用は、従来の探究学習をより広げ、児童主体の授業をさらに実現していくものだと実感しています。

（教諭　小野 剛一）